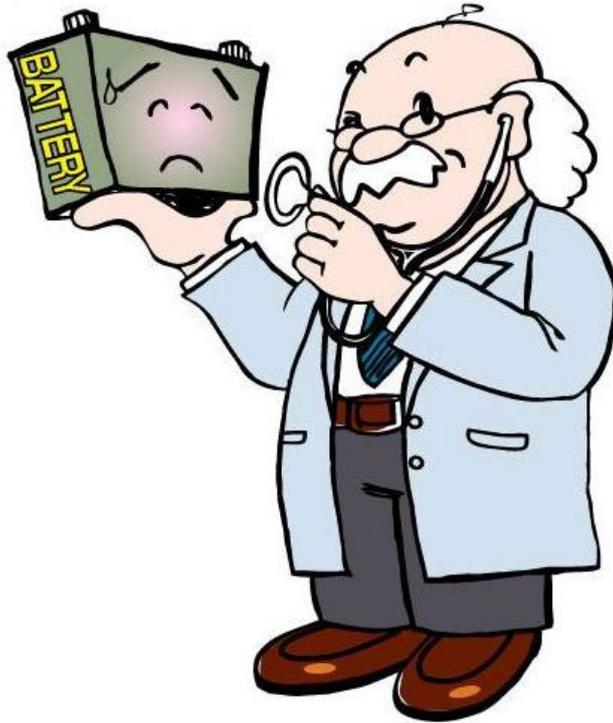


2023 年度

(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

環境活動レポート



2024 年 10 月 20 日発行

ミリオンテック (資)

1. 登録事業所の概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

ミリオンテック合資会社
代表 鶴丸 彰紀

(2) 所在地

本社 〒961-0971 福島県白河市昭和町 69-6
白河工場 〒961-0076 福島県白河市五番町川原 1-1
資材倉庫；(那須ストックヤード 〒325-0001 栃木県那須郡那須町高久甲 2692)

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 鶴丸 彰紀
担当者 鶴丸 彰紀
連絡先 電話：0248-31-2813 FAX：0248-31-2812 (携帯：090-2275-1196)

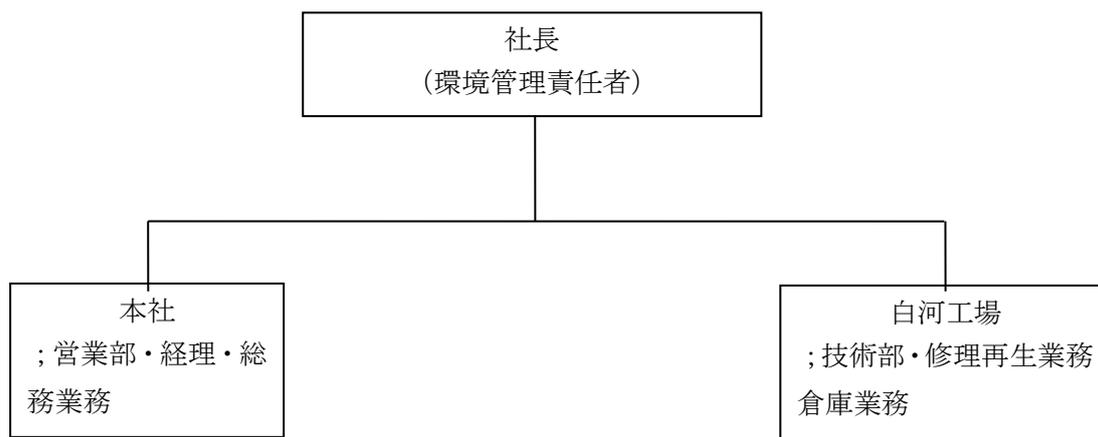
(4) 事業内容（認証・登録の範囲：全組織全事業活動）

電気部品卸売業・各種バッテリー及び周辺装置の販売・バッテリー再生事業

(5) 事業の規模

売上高 2,474 万円（2023 年度）
従業員 4 名
事業所延べ床面積 490 m²（本社約 20 m²+白河工場 170 m²+那須ストックヤード 300 m²）

(6) 組織図



※那須ストックヤード
; 資材倉庫(無人)

2. 環境方針

環境方針

〈基本理念〉

当社は、バッテリーの修理・再生技術を主軸に「バッテリーのワンストップサービス」を実現します。法人工場を主としたサービスを展開し、リユースを推進します。

バッテリーの早期の買い換え(=廃棄)は、資源の無駄だけでなく、正規のリサイクル時にも鉛等を溶かす熱量(=CO2の発生)などの環境負荷にもつながり、更にはコストの負担増加にもなっています。今まで、弱ったら買い替えるしかなかったバッテリーの修理・再生による再使用を推進することで「使える資源は最後まで使ってからリサイクルする」エコにつながります。

このリユースとリデュースの推進を実施する事を当社の基本理念と致します。

〈行動指針〉

当社は、基本理念の実現に向け、日頃の事業活動のなかでも環境保全に配慮して行動することが経営の重要課題の一つとしてとらえ、次の行動指針を定めます。

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減し、環境への影響を最小限にとどめるため、次の取組を行います。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 水使用量の削減
 - ③ 廃棄物の排出量の削減
2. エコアクション21の取組により、環境への取組みの継続的な改善を図ります。
3. 事業活動において適用される環境法規制等を遵守します。
4. 環境教育・訓練の実施により、全ての構成員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
5. 環境方針等、必要な情報を開示します。

制定日:2009年5月15日

改定日:2020年8月1日

ミリオンテック合資会社

代表取締役社長

鶴丸 彰紀

3. 環境目標とその実績とその評価及び中期目標

2024年10月20日 鶴丸

項目	年度		2012年度 (基準年度)	2023年度 (目標率) 目標値	2023年度 (実績)	評価	2024年度 (目標率) 目標値	2025年度 (目標率) 目標値
	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量 (工場移転 2016 年度使用量を新基準として削減する)	kWh	(工場移転の2016年を基準) 15,868	▲4.5% 15,154		13,237	○
ガソリン使用量		リットル	(2012年) 2,328	▲5.5% 2,200	1,089	○	▲6.0% 2,188	▲6.5% 2,177
軽油使用量		リットル	(2012年) 2,688	▲8.0% 2,473	1,331	○	▲8.5% 2,460	▲9.0% 2,446
灯油の使用量 (高齢者対策の暖房器具導入で2016年の新基準)		リットル	(工場移転で暖房器具導入2016年を基準) 1,392	▲3.5% 1,343	1041.9	○	▲4.0% 1,336	▲4.5% 1329
二酸化炭素排出量		kg-CO2	(2012年) 19,804	▲5% 19,012	14,602	○	▲6% 18,616	▲7% 17,871
水使用量の削減	水使用量	m ³	(工場移転の2016年基準) 245	▲5% 233	125.6	○	▲6% 230	▲6% 228
廃棄物の排出量の削減	廃棄物排出量	kg	(2012年) 370	▲20% 296	230	○	▲20% 296 (300kg/年以下の維持を目標とし分別徹底)	▲20% 296 (300kg/年以下の維持を目標とし分別徹底)
自ら提供するサービス	バッテリーの修理量を増やす	t	7.5	+15% 8.7	10.00	○	+20% 9.0	+25% 9.4

※ 化学物質の取扱はありません。

※ 二酸化炭素排出係数 白河 0.460(kg-CO2) ※令和6年8月29日環境省発表、東北電力事業者全体。(東北電力)

※ 二酸化炭素排出係数 那須 0.376(kg-CO2) ※令和6年8月29日環境省発表、東京電力事業者全体。(東京電力Iパワーホールディングス)

4. 活動計画と活動評価と次年度の活動

対象期間(2023年7月～2024年6月)までの目標とその実績についての計画と評価

取り組み項目	活動評価	次年度の活動
<p>二酸化炭素排出量の削減</p>	<p>電力の省エネ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの設定温度遵守(冷房 27℃、暖房 21℃) <p>⇒意識付けとして、冷房 28℃、暖房 20℃をシール化して掲示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場照明の LED 化 ・不要な照明点灯削減(監視用防犯カメラ導入) ・機器省電力設定の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 白河工場電力においては大幅な削減となった。但し内容としては、社内研修等の増加や営業ボリュームのダウンも低減の影響のため、今後営業量をボリュームアップさせたときに、電気使用量は影響を下げたいけるよう新入社員を核に省エネ活動の再教育を行う。 ① 白河工場において各部 LED 化や、天井照明(水銀灯)の不使用も達成できている。次年度も活動を継続する。 ② 那須ストックヤードについては、現在は倉庫だけで通常は無入であり、必要に応じてのフォークリフトの補充電など抑制ができています。今期に関しては、一部工事要因があり夜間仕様がかった分は上がっているが、使用量も微量のため問題化しない。 <ul style="list-style-type: none"> ・またこの工事で、消火設備の自動化消火器のメンテナンスも実施し、安全性は上がる ③ 先々期行った「那須ストックヤードでの作業時間を昼間に限定する」については、バッテリーの維持管理も回収が減ってしまい、フォークリフトや実験中の太陽光パネル用のバッテリーを悪くしてしまう結果となり、本末転倒になった。来期は補充電方法など含

(電力)	<p>実際に白河工場及び那須ストックヤードともに（白河工場移転後の2016年度目標を）大きくクリアしている。</p> <p>※「本社」の電力削減については、「オール電化」化した要因で、従来のガスを含む光熱費が全て電気でもかなうこととなっていることが要因。</p> <p>LPガスの使用が無くなったことで、環境影響は確実に減らせているが、単独では 前年比；+3.5% 基準年比；+64% となっている。</p> <p>但し、コロナ禍～今期のボリュームダウンの影響もあり、再検討する。 ・全体では電力量は十分な削減の達成ができていないため、数値が不完全。実績値の推移見直しを実施中。</p>	<p>めた再度見直しを実施する。</p> <p><次年度の活動></p> <p>① 「水銀灯使用ゼロ対策」の活動継続。（白河工場の「既存の水銀灯」を極力使わないようにできるように『LED照明化』をする。）</p> <p>② 防犯カメラの増設も踏まえ、付加的効果として「夜間照明の消し忘れ」に対しても対策を徹底する。</p> <p>③ 那須ストックヤードの「バッテリーメンテナンスにおける充電・放電の効率化」（太陽光パネルの改善及び他方法も含め検討する。</p> <p>④ 新しく開発中の「バッテリーデータロガー」の実験を那須工場で実施している。 これにより、那須工場のバッテリーフォークリフトや太陽光パネルの「遠隔管理と適正なメンテナンス」の実績を実証する。</p>
<u>エコドライブ</u> ・エコドライブ10の実施	<p>・目標は十分に達成できている。</p>	<p>営業ボリュームの低迷による営業車及びトラックの稼働量が減ったことで大きく目標を下回ったが、良い下がり方ではない。ボリューム回復に伴い目標をオーバーしてしまわないように、日ごろのエコドライブの再徹底を行う。</p>
<u>灯油の削減</u> ・こま目に消す	<p>・2016年度基準年 1392L→1089L(▲22%) 適正な活動を行うこと</p>	<p>⇒灯油は「暖房にのみ使用」するため温度設定を上げすぎないことや、不要時にはこまめに消すな</p>

		<p>ができた。</p> <p>(従業員の高齢者に対する職場環境改善の必要性から作業場の暖房設備は必須)</p>	<p>どの省エネ徹底を行っている。</p> <p>★次年度は新しい従業員が使用することになり、暖房使用量が増えることが懸念される。省エネ意識付けの徹底をし、従来より継続で、使っている「灯油使用量の見える化」を今年度も徹底する。</p>
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水呼びかけ ・ 節水表示 ・ 屋外清掃のタイミングの見直し(雨天後などを有効利用する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場前面広域の清掃日を雨天の翌日にするなど水の節約の工夫ができています。 ・ 本社及び白河工場の使用量ともに大幅に目標を下回った。 	<p>弊社は製造などに水を使わないので、日常使いや掃除のときの節水を主に継続する。</p> <p>(今期は新しい従業員教育の関係で、保管バッテリー等の清掃作業が十分にできていなかった。)</p>
廃棄物排出量の削減	<p><u>一般廃棄物の削減</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分別の徹底 <p><u>コピー用紙の削減</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両面コピー・縮小コピーの活用 ・ 社内文書の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度にごみの排出をし損ねたため、増加を覚悟していたが、分別の徹底で、例年程度に収まった。 <p>「捨てればごみ、分ければ資源」の意識付けは徹底できている。</p>	<p>「分別の徹底」ができるようになっており、これを継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可燃ごみ分の分別(紙類・プラスチック類のリサイクル業者への引き渡し⇒地元子供会等への寄付)を意識付け。不燃ごみ内の金属・樹脂の分別の徹底を意識し、発生量を削減する。 ・ (但し昨年実施できなかった特管産廃の排出を次年度予定) ・ 分別による減量を徹底する。
自ら提供するサービス	<p><u>バッテリー修理量を増加をさせる</u></p>	<p>環境活動に謳う弊社事業の環境への貢献として、営業時の「バッテリー買い替えではなく修理へ」の意識づけを徹底できた。</p>	<p>営業活動時の意識づけと、顧客への「早めの対策」の意識づけを行い、修理不可能なまでに壊れる前に修理受注を受けるようにする。</p>

【代表者による見直し】

- ◆削減目標は全項目で達成できており、評価は◎である。
- ◆但し今期の評価はベテラン従業員の定年退職による工場従業員の引継ぎ業務や、新入社員の社員研修に注力したため営業ボリュームの低減、及び売り上げのダウンによるもので、決して良い状況の結果ではない。
- ◆まずは社内での作業ボリュームのアップを目指す。そのために「効率化」を目標にして、作業工程のシステム化や放充電装置の自動化・拡充を行う。(効率化で従業員一人当たりの作業量を上げられるようにし、代表者の顧客への営業ボリュームを再度上げられる状況にする)
- ◆本社事務所の移転(オール電化化)の目標再設定についての再検討は、適正な実績をみるため次年度以降に繰り越すこととした。(近年はコロナ禍～また先期は人員の影響が大きく響いた結果になったため、この現年度の実績値を基準とはできないと感じた。まずは現状使用している「コロナ前の正常な基準の目標値」で営業ボリュームをあげられるように、色々なシステム化することに注力をする。
- ◆近年の市況や情勢において、顧客でもバッテリーの買い替えコストが大きく上昇している。無駄な費用を抑えたいユーザーが多く発生しているため、バッテリーの修理再生のニーズは深まっていると考える。
人員の教育と効率化をすすめ、更に営業にも注力していく次年度とする。また開発中だった非対面やバッテリーの遠隔監視などの新商品開発⇒展開も順調に進めているため、今後の研究開発も進める。ニッケル水素・リチウムイオンへの「旧式バッテリーの置き換え化」なども含め研究中である。

<良かった点>

- ◆遠隔で常時確認が可能な防犯カメラの設置により、防犯だけに限らず照明消し忘れや装置の無駄な稼働にも気づけるようになった。工場サイドの「照明のLED化の推進」と「水銀灯使用0の取り組み」が順調に進み、ほとんどの場所のLED化ができた。
- ◆集中した社員研修を実施したことにより、思っていた以上に立ち上がりはよくなっている。
- ◆新入社員のゴミの分別への意識付けもできるようになってきている。

<悪かった点>

- ◆代表者の腰痛(ヘルニア)の発症と、社員教育への影響などで営業にかけられる時間以外が多忙になってしまい、前年度より予定していた特別管理産業廃棄物(アルカリ蓄電池)の廃棄もできなかった。
- ◆上記のことにより、既存従業員の引継ぎや新入社員の研修に時間がかかりすぎ、代表者の営業ボリュームが大きく落ち込んでしまった。
- ◆主に作業で数多く行う「バッテリーの放充電作業」において、まだまだシステム化が不十分であった。経験の多い作業員では可能な作業が、歴の浅い従業員には困難になる点が数多く見つかった。今期はこれを改善するために注力する。

環境方針の変更(不要)

環境目標及び活動の変更(不要)

その他のマネジメントの変更(不要)

2024年10月20日 代表 鶴丸 彰紀

5. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

法 規 名	該当する項目
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物
資源有効利用促進法	パソコン、携帯電話
自動車リサイクル法	トラック、乗用車
家電リサイクル法	TV、エアコン、冷蔵庫
水質汚濁防止法	灯油
福島県生活環境の保全 等に関する条例	エコドライブ 10 の実施
白河市環境基本条例	エコドライブ 10 の実施
栃木県生活環境の保全 に関する条例	エコドライブ 10 の実施

環境関連法規制等の遵守状況は、定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去5年間にわたって違反や訴訟も1件も発生していません。